平成 21 年 3 月議会
一般質問

新実祥悟

〇新実祥悟

議長の許可をいただきましたので、通告の順に従いまして、一般質問をさせていただきます。では

1、名鉄西尾・蒲郡線について、お尋ねいたします。

先日、白寿を迎えられた、元市議会議員石川精一先生に鉄道建設についてお話を伺いました。先生によりますと、先生のお父上が塩津村村長をされていた際に、鉄道建設に向け奔走されたとのことです。時には自宅に 4、5 人の若い衆が来て、出刃包丁をたたみに突き立てて大声でなにやらわめきたてていたこともあったようです。師の命を賭してのご尽力は衷心より敬服するところであります。

そこで、実際どのようなことがあったのか、平成 18 年 3 月発刊された蒲郡市誌をひもといてみました。それによりますと、現在の名鉄西尾・蒲郡線は、当時の三河鉄道によって昭和 11 年 11 月に蒲郡駅までの全線開通がなされたとのことです。また、鉄道建設には幾多の問題が生じ、多くの住民の陳情がなされたとあります。

多くの方がかかわり、ご努力をされたことを改めて知ることができました。

このような経緯を経て、名鉄の利益はもちろんのこと、その後の蒲郡の発展につながったことは明らかです。

また 12 月議会では伴議員、昨日は鎌田議員の代表質問にありましたように、名鉄は通勤、通学にとても利用されています。市内高校への通学に限ってみても、大塚町の蒲郡東高校、三谷町の三谷水産高校、中心地区にある蒲郡高校へ多くの学生が通っています。

本議場内にも先輩に当る方が多くお見えになります。したがいまして、名鉄西尾・蒲郡線は蒲郡市民全体の問題という認識の下、取り上げさせていただきます。そこで

（1）対策協議会の様子と今後について、お尋ねします。

名鉄西尾･蒲郡線の第 4 回対策協議会が本年 1 月 16 日に行われたと伺います。その中で名鉄側に回答書が出されたそうですが、それはどのようなものでしょうか。

●企画部長

昨日、鎌田議員へお答えしたとおりでもあるのですが、「必要不可欠な路線」であると強く回答し、併せて、国や県の積極的な参加のもと、組織を充実して協議していくという回答をしたところであります。

〇新実祥悟
　今のご答弁に加えさせていただきまして、鎌田議員さんへの答弁要旨なのですが、名鉄がなくなると、子供たちから学業選択の自由が奪われかねないこと。また、環境負荷が高まり、環境をテーマに開催した愛知万博の趣旨に合致しないこと。そればかりか、第 10 回目の生物多様性条約締約国会議、いわゆる COP10 の開催地としても不都合があるのではないのでしょうか、というような内容であったかと思います。次の質問ですが、
　回答書に対する名鉄側の所見として、沿線自治体が中心になって協議をお願いしたいと、ボールは自治体にあるかのようなお考えをお持ちのようですが、当局としてはその点はどのようにお考えになりますか。

●企画部長
　名鉄側としては、事業主であるということからしても、会長職を他の機関にお願いしたいということであると考えられます。広域的な見地からは愛知県に、また情報分析や研究推進の観点からは国に、それぞれ参加要請を行うなど、沿線市町と名鉄側で確認をさせていただいておるところであります。

〇新実祥悟
　3 月中には第 5 回協議会を開催し、今後の方向性を決めるということですが、今後の対応については県、国、他の沿線自治体を含めた協議の場を作る旨、伺っているのですが、具体的な協議とはどのようなものになるのでしょうか。

●企画部長
　本年（平成２１年）２月２０日に、沿線市町の首長から愛知県知事あてに、会長職の就任を文書でもって依頼したところであります。県の２月定例会で、「名鉄西尾・蒲郡線」問題に関するご質問がありまして、それに対して知事が、県としても検討の場に積極的に参加する、というご答弁をされたというふうにお聞きしております。会長職の就任に触れられることはありませんでしたが、沿線市町としては、県の強いリーダーシップを期待するところであります。あわせて、国の積極的な参加を期待しておるところであります。協議の内容につきましては、課長レベルの幹事会で、会長職を含めた体制づくりの協議を現在しておるところであります。体制が整えば、「名鉄西尾・蒲郡線」の存続を前提に、様々な議論をしてまいりたいというふうに考えております。

〇新実祥悟
　はい、ありがとうございます。それで、こういったお話し合いをするにあた

って、いろんなことを知っておかなくてはいけないのかなぁというふうに思いまして、次の質問をさせていただくのですが、

（2）廃線となった三河線と沿線市町のその後の対応について、ということなのですが

蒲郡線への今後の対応を考える場合、廃線となった三河線について知っておくというのは重要かと思います。そこでお尋ねします。どのような経緯で廃線になり、現行はどうであるか、つかんでいらっしゃいますか。

●企画部長

廃線の経過につきまして、私どもの知っている範囲でお答えをさせていただきます。

名鉄三河線の廃止にあたりましては、沿線市町は平成１０年１１月の新聞報道にて始めて情報を得ており、翌１２月に名鉄側から各市町へ事情説明がされたようであります。それを受けまして、碧南市、西尾市、一色町及び吉良町の首長、議長、商工団体の連名で、名鉄側へ存続に関する要望書を提出し、同じく愛知県側へ存続の要望をしたというふうにお聞きしております。

平成１１年５月には、名鉄側から存続に対する協議の話しがあり、１１月には関係市町の首長会談によって存続を相互確認いたしましたが、平成１２年３月には名鉄側から廃止の通告と併せてバス代替の協議を持ちかけられたとのことであります。

廃止通告を受けまして、また沿線高校からの陳情も受けたため、８月には赤字補填をして存続することを関係市町の首長が確認したとのことであります。同時に、愛知県知事へ財政支援の要望を行うとともに、平成１３年２月には、名鉄三河線問題連絡協議会を設立し、赤字の縮小を目的とした利用促進や県への支援要請などを協議したとのことであります。しかしながら、平成１５年の協議会にて「平成１６年３月３１日」をもっての廃止を決定するとともに、代替バスの運用方法を検討していくことになったとのことであります。その後は、「ふれんどバス」の運行をしているとお聞きをしております。

〇新実祥悟

現行バスの運行でお尋ねするのですが、今、昼間 1 時間 1 本を回しているというふうに伺っているのですが、今後、乗客減のため見直すという話もちょっと聞きました。見直すということはつまり、削減の動きもあるというふうにうかがうのですが、こういうことをやるということは、停留所を増やすことで利用者増を見込める反面、利用者がなければ便数を減少させる、その結果ジリ貧もあるというふうに私は思うのですが、そこで現状、住民移動はうまく回って

いるかどうかその辺はつかんでいらっしゃいますか。

●企画部長
　バスの運行に対しましては、高校生の通学に不便が生じているというふうにお聞きをしております。それからバスの運行時間の終了が鉄道と比較して早くなった等、利便の面で不都合が生じているとお聞きをしております。

〇新実祥悟
　沿線市町はバスの運行に対して負担金を出しているようなのですが、今後の対応については、どのようになるのかというのは掴んでらっしゃいますか。

●企画部長
　ほかの市町のことでありまして、答える立場ではないと思っておりますのでよろしくお願いします。

〇新実祥悟
　たぶん、当局の方としましては、いろいろなことを掴んでおるのかなぁというふうに思いますが、今後のこともありますので、引き続き情報収集に勤めていただきたいと、こういうふうにお願いいたします。次に
（3）鉄道高架事業名鉄分の建設費について、お尋ねします。
　沿線市町の言い分として（住民側の言い分として）お尋ねします。名鉄蒲郡線の税負担は一体いくらになったのでしょうか。

●企画部長
　蒲郡駅付近連続立体交差事業につきましては、地権者の皆様をはじめ関係各位のご理解とご協力を賜りまして、平成２年の事業着手以来、１８年の歳月と総事業費約４２１億円をかけて平成２０年３月に事業が完了したところであります。総事業費約４２１億円のうち、ＪＲ高架事業に約３４０億円、名鉄高架事業に約８１億円を要しておるところであります。名鉄高架事業に要した約８１億円のうち、名古屋鉄道株式会社が負担した建設費（事業費）は約４億円、河川管理者（愛知県・蒲郡市）の負担が約７億円、国の負担が約３６億円、愛知県の負担が約１７億円、蒲郡市の負担は約１７億円となっておるところであります。

〇新実祥悟
　県民、国民の税金を使っている以上、県や国にも予算の執行責任があると考

えます。この意味において、県や国にも積極的に関わっていただきたいのですが、その点についてはいかがでしょうか。

●企画部長
　先ほどお答えしたとおり、国や県から､事業にあたり多額の負担をいただいておるところであります。議員ご指摘のとおり、ぜひとも国や県にも「国民の足・県民の足」として積極的に関わっていただきたいと考えておりまして、特に愛知県には強力なリーダーシップを期待しているところであります。

〇新実祥悟
　実際には、名鉄も約 4 億円の負担をしているということです。鉄道高架によって直接、名鉄側も収益が上がったとは思えません。しかし、踏み切りの故障ですとか事故が減るなど、負担は減ったのではないかと思います。したがいまして、名鉄も利益を得ているといえるのではないかと、私は思います。ここでは、住民側はこのような話もされているということを付け加えさせていただきます。次に
（4）乗降客と収益の推移について、お尋ねいたします。
　これは名鉄側の言い分として伺いますが、蒲郡線、つまり吉良吉田駅から、蒲郡駅までの乗降客の推移を、まずお尋ねいたします。

●企画部長
　名鉄からいただいた資料によりますと、吉良吉田駅から蒲郡駅までの蒲郡線では、平成１９年度の実績におきまして、年間通勤が 36 万人、通学が 77 万人で、定期利用者は 113 万人、通常利用は 55 万５千人であり、年間の利用合計は１６８万５千人となっております。また１０年前の平成９年では、年間通勤４５万人、通学が８９万人で、定期利用者は１３４万８千人、通常利用は８９万７千人であり、年間の利用合計は２２４万５千人となっておりまして、この１０年の間に合計では約２５％の利用減となっております。国鉄利用時のバス化の数値として参考になりました輸送密度という基準を用いれば、１日あたり４，０００人以下がバス化の対象となったことを考慮いたしますと、平成９年度の約３，０００人が、平成１９年度には約２，０００人となっておりまして、以前より厳しい運営状況であると考えられます。

〇新実祥悟
　確かに今、非常に厳しいということは、この部長さんの説明を聞いても理解されるところですが、それでは、この路線はいつから赤字となったのか、その

辺は掴んでいらっしゃいますか。

●企画部長
　名鉄側からいただいている資料では、平成１６年から平成１９年まで連続赤字となっております。平成１６年の約６億４千万円の赤字が平成１９年には７億１千万円の赤字に膨らんできております。「いつから赤字か」ということでありますが、平成１６年以前の資料をいただいておりませんので、分からないというところであります。

〇新実祥悟
　運行上の単純収益に掛かる赤字なのか、あるいは減価償却分が入っているとか、他の路線との分離できない重複的な経費が入っているかなど、これは精査していただかなければならない部分があるのかなぁというふうに思います。そうではあっても、厳しい運営がなされているということは認めざるを得ないと、こういうふうに考えます。そこで、
（5）西尾・蒲郡線沿線市町の様子と対応について、お尋ねします。
　本年 1 月 31 日にありました「幡豆町地方公共交通活性化セミナー」というのに私も参加させていただきました。久しぶりに名鉄電車に乗って吉良吉田駅まで行ってまいりました。
　私の子どもが幼いころにはウサギ島、サルが島、愛知こどもの国、そして海水浴にと、時々名鉄を使用させていただいておりました。今回そこで見たものは以前と変わらぬ風景、美しい海ですとか、きれいな山河でした。よく言えば、何も変わらないふるさとがそこにあるといえるのですが、斜めに見るとウサギ島もサルが島も廃園になって、愛知こどもの国も冬場に（一般会社によって）スケート場がオープンするなど、頑張っているようですが、特に、特筆すべきことは見当たらないのかなぁというふうに感じます。
　先ほど「久しぶりに」といったのは、このように名鉄を利用する動機付けというのがなかったからです。そこで、お尋ねいたします。
　沿線の駅前周辺整備はどのようになっておるのでしょうか。沿線市町の公共交通機関としての名鉄への思い入れというのは、どの程度であると受け止めていますか。

●企画部長
　沿線市町の名鉄沿線の周辺整備ということでありますが、各自治体それぞれまちまちだと思っております。なお、蒲郡市の周辺整備につきましては、他の市町と比較しても、進んでいるのではないかなぁというふうに思っております。

それから、沿線市町の名鉄への思いということでありますが、各市町とも、「存続させたい」という気持ちでは一致しているというふうに思っております。

〇新実祥悟
　西尾市内も鉄道高架が進みまして、西尾駅もとてもきれいに整備されました。しかし、残念ながらその他の地区はほとんど手付かずと言ってよいではないでしょうか。名鉄のためだけではなく、色々な広域連携を図る中、例えば愛知こどもの国の利用促進策や、こどもの国駅の周辺整備を愛知県に求めていただくとか、こういったこともしていただきたいなぁというふうに思います。またこういったことを協議会の中でも話し合っていただければたいへんありがたいなぁというふうに思います。それでは、次の質問にうつります。
　活性化セミナーのあった日に吉良吉田駅まで行ったとお話ししましたが、驚いたことに、西尾方面に行くには一度改札口を通らなければならないようになっていました。蒲郡線と西尾線は単純な乗換えでは済まなくなっているのです。そればかりか、吉良の町に出るには 2 回改札口を通らなければならない、こんなふうになっていました。この工事がされたのは、駅員さんによりますと昨年、平成 20 年 6 月（1 日）からだったそうですが、当局としては吉良吉田駅の、いわゆる「改札分離」についてはどのように受け止めていらっしゃいますか。

●企画部長
　大変不便になったというふうにお聞きしておりまして、他の路線と一体となったＳＦカード化を望んでおるところであります。

〇新実祥悟
　一歩踏み込んだ感想ですけど、改札分離は名鉄側の利用動向調査にも使われているのではないかなぁと思います。穿った見方かもしれませんが、あたかも「蒲郡線はいつでもそこで切れるんだ」というそんなアピールにも見えてしまいます。そこで、利用促進についてですが
（6）本市の対応について、お尋ねしたいのですが、
　本市職員の利用実態はどういうふうになっているのでしょうか。また、本年度の取り組みで、利用増に向けた手応えというのがあったかどうか、その辺をお尋ねします。

●企画部長
　本市職員の利用実態ということでありますが、現在、通勤利用は、６名というふうに掌握しております。なお、職員の各々の判断によって、通勤の際に不

定期に利用をしていただけるよう協力依頼をしているところであります。また、本年度には、宝飯地区広域市町村圏協議会の協力によりまして、西浦地区で、ウォーキング大会を実施したところであります。それから、来年度の５０キロハイクのスタートを、名鉄西尾・蒲郡線が利用される吉良吉田駅、その周辺を設定をしたところであります。さらに、３月１日には市民オリエンテーリングを企画し、また３月２９日には幡豆町と連携して西浦と幡豆町を結ぶウォーキング大会を企画するなど、利用促進に向けた努力をさせていただいておるところであります。

〇新実祥悟
「職員さんへの利用促進をお願いしたい」と、まず、お願いしますが、実際には、義務的な利用促進というのは、残念ながら長続きしないとも思っております。また、イベント効果は期待するところですが、それにばかり頼ることもできないのかなぁと、そういう印象も持っております。そこで、名鉄のためだけでなく本市の発展のためにも、定常的な利用を図るということで、それぞれの名鉄駅前周辺整備は重要だとこのように考えます。特に蒲郡競艇場駅前は手付かずであり、本市のよりいっそうの発展を考えても、もったいないのではないかと考えるのですが、いかがお考えでしょうか。

●企画部長
手つかずということなのですが、決してそういうふうに思ってなくて、蒲郡競艇場駅前、ＪＲ三河塩津駅前につきましては、南側に駅前広場、公衆便所、駐輪場が整備されておりまして、北側につきましては踏切閉鎖後に、名鉄用地を取得いたしまして、自動車での送迎用の待機場所を整備したところであります。周辺整備としては、ひととおり整備は済んでいるんじゃないかなというふうに思っております。

〇新実祥悟
駅のそこだけの整備ということでは、確かにちゃんとされているのかなぁというふうには思いますが、それを一歩踏み込んで、もう少し整備していただきたいなあというふうに思うのですが、そういったところではいかがお考えですか。

●企画部長
ご意見として承っておきます。

新実祥悟

〇新実祥悟

こちらの方も、昨日の鎌田議員からの質問の中にありましたが、競艇場による油井２０号線の一つの形ができていくのかなぁというふうに、今たいへん期待しておるところであります。次にですが、

乗降客の推移で言いますと、1 日平均乗降客ですが、この 5 年間で幡豆町内駅の減少というのが 213 人というふうに聞きました。それに対して蒲郡競艇場前駅が 193 人ということで、増減というのがほぼ一致しているのではないかなぁというふうに思います。これを見ると競艇場の役割は大きいと考えます。今以上に競艇場来場客増加に力を入れていただくことは重要かと存じます。あるいは沿線自治体が協力して、運行本数の増加や運賃減額などサービス向上を前提にした補助金を投入するという手段も考えられるとおもうのですが、その点についてはいかがでしょうか。

●企画部長

競艇場にご来場いただくお客様の増加につきましは、競艇事業にとっても大きな課題であるというふうに思っておりまして、ファンサービスの充実など、今後も一生懸命努力をしていくところであります。それから補助金ということでありますが、補助金などによる運営支援につきましては現段階では考えていません。当面、利用の促進などを、もっと検討してまいりたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いします。

〇新実祥悟

私、名鉄さんにお願いしたいということは、ビジネスライクに判断しないでほしいということです。今お話させていただきましたが、過去の経緯もあります。今後の名鉄に対する沿線住民の心象も考慮すべきではないでしょうか。本市のすべきこととして、名鉄や JR の乗客数を増やすためにも、蒲郡市のためにも、観光立市宣言したからには、観光に即した企業誘致などして人口増を目指すべきであると考えます。そこで、質問２へ続きます。

２、第 4 次蒲郡市総合計画について、お尋ねいたします。

この質問につきましても、昨日の鎌田議員の代表質問で取り上げられ、一部重複しますがご答弁の方お願いいたします。

（1）計画の進捗状況について、ですが

今現在、総合計画策定に向け、どの程度進んでいますか。

●企画部長

２月に若手職員によるワーキングチームを編成しました。このワーキングチ

ームは、総合計画の素案づくりをやっていただく組織でありますが、新年度に入りましては、策定委員会とか審議会とか、そういったものを立ち上げてまいりたいというふうに思っておりまして、平成 22 年中には策定してまいりたいというふうに考えております。

○新実祥悟
（2）策定方法と期間について、ということで
今、期間の話をしていただいたのですが、前回の策定方法というのは、ちょっと以前のものを見せていただくと、部会制をとったり、統計資料を調査したり、住民の意見聴取、市の職員さんの意見聴取も入っていると思いますが、あるいは委員の選定ですとか、多岐に渡る事務量だったと思いますが、そんな点での、なにか反省点というのはあるのでしょうか。

●企画部長
特に問題無いというふうに認識をしております。

○新実祥悟
前回の総合計画というのは、議会で決議するまでに 2 年 4 ヶ月かかっています。第 3 次総合計画と比較してですけど、まず、ワーキングチームを立ち上げた、それが 1998 年の 2 月、これを今年の 2009 年の 2 月に当てはめますとですね、その後、提言、アンケート、意識調査を 1 年かけてやった、そして 1999 年、これまた年間を通して審議を行い、その後、2000 年の 1 月に基本構想素案を策定し、2 月にアンケート調査をした、その後 6 月に議会で基本構想を議決したと、こういうふうになっていますが、この辺については、どのようにお考えになりますか。

●企画部長
確かに、現計画の策定期間と比べると、次期計画の策定期間は若干短くなっています。しかしそれは、大きな問題では無いというふうに思っております。スピード感を持って、集中的にやってまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○新実祥悟
一つ、期間的に、時間的になかなか難しいところがあるのかなぁというところで、次の質問をさせていただくのですが、
昨年 10 月 29 日に、蒲郡市企業用地確保検討委員会から 5 箇所の企業用地候

補が市長に提示されました。この内、4 ヶ所につきましては上位計画に載せなければならないと聞きます。この上位計画とは、つまり総合計画のことではないかと思うのですが、とすると、地元説明をするなど、事務手続きだけでもかなり時間を要するのではないかと思われます。この点については、いかがお考えですか。

●企画部長
　企業用地確保検討委員会からご提言をいただきました候補地５箇所につきましては、全て上位計画であります総合計画に位置づけをしていきたいという考えを持っております。候補地の５か所とも、既に地区の開発委員会等にご説明させていただいておりまして、総論としては理解をいただいているんじゃないかなぁと思っております。今後、各論での理解をいただくという、そういう必要があるかと思いますが、総合計画への位置付けにつきましては、問題無いというふうに思っております。

〇新実祥悟
　承知しました。スケジュール的にも問題ないと理解いたします。ほかにも問題がいろいろあるかもしれません。しかし、遅くとも平成 22 年度中に総合計画が決定できるよう、つまり、第 4 次総合計画の実施計画の実施期間に入ってからの決定にならないよう、これはお願いしたいなぁというように思います。そして次の質問です。
　男女の共同参画ということもあります。ですから男女分け隔てないということはもちろんですが、学生や 20 代、30 代の意見も積極的にこの総合計画立案の中にに取り入れていただきたいのですが、そういった点はいかがでしょう。

●企画部長
　先ほども申し上げましたが、新総合計画策定にあたりましては、市民参画・市民協働に重きを置いていきたいというふうに考えております。「市民意識調査」、あるいは「市民まちづくりワークショップ」、「審議会」、あるいは「パブリックコメント」など、いろんな形でご意見をいただく場を設けていく考えでありまして、幅広い層からご意見がいただけるよう配慮してまいりたいというふうに思っております。

〇新実祥悟
　わかりました。では、次の
（3）計画の具現性について、お尋ねします。

ア、社会変化に対応できる期間について、ということでお尋ねしますが、

さる 1 月 13 日、三河湾連合協議会が発足したと伺います。この内容についてもお尋ねしたいと思いますが、このように、東三河だけでなく西三河とも広域連携がもっと深まる可能性が今後あると思います。昨日、やはり鎌田議員の質問の中で、観光に関する広域協議会を設置するお考えも当局のほうから伺いました。もちろん道州制や合併が進んだ場合の対応も考えなければならないでしょう。そうなれば地方政府など大きな集合体の中での、本市の役割を議論する必要があるのではないでしょうか。もちろん名鉄蒲郡線の動向にも注目しなければならないでしょう。このようなことは総合計画を立てる中で、どのように捉えていらっしゃいますか。

●企画部長

広域的役割は、確かに重要だというふうに思っております。次期総合計画は、社会・経済状況の動向、市民意識の動向などを踏まえて、いろんな角度、いろんな切り口から、施策づくりをしていく必要があるかと思っております。その中には、当然ながら、名鉄蒲郡線、あるいは道州制の問題も踏まえていく必要があり、広域の中での蒲郡市の役割、独自性、特色づくりをしていかなければならないというふうにと考えております。広域には、いろんな枠組みがあっていいんじゃないかなというふうに思っております。たとえば観光から見た枠組み、あるいは消防から見た枠組み、産業から見た枠組みなど、いろんな形があるかと思うのですが、柔軟に捉えてまいりたいというふうに思っております。

〇新実祥悟

もう一点お尋ねしたいのですが、先ほど広域という中で、三河湾連合協議会というのを発足されたと伺っておるのですが、こちらはどのような内容なのか、お尋ねいたします。

●企画部長

それは、勉強会です。

〇新実祥悟

まだ、はっきりしていないという部分があるのでしょうか、わかりました。また、どこかの段階でお尋ねいたします。次にですが、今言われたように広域ということで、社会変化への対応ということを考慮しますと、この総合計画、10 年計画では長いのではないかというような意見もあると思うのですが、5 年計画に、その期間を半分にするなんていうようなこともあるのかどうか、その

辺お尋ねします。

●企画部長
　次期総合計画は、１０年計画にしたいというふうに考えております。５年計画という考えもあるかもしれませんが、まちは、長い目で作り上げ、育て上げていくということが重要だと思っております。その中で、総合計画は、中・長期を見据えたまちづくりプランだというふうに考えております。あまり近視眼的なプランにすべきではないというふうに思っております。しかしながら、次期総合計画を進めていく中で、社会・経済環境が変化し、あるいは市民意識が変化するなど、取り巻く環境が大きく変化していくことも想定がされます。その際は、改定ということも十分ありえるかなというふうにも思っております。次期総合計画には、改定の位置付けもしていく考えでおります。なお、次期総合計画も、基本構想、基本計画、実施計画の３本柱で作っていく考えでおります。諸々の変化に対しましては、実施計画を策定する中で、若干の微調整をしていくそんな考えも必要じゃないかなというふうに思っております。

〇新実祥悟
　はい、承知しました。長期展望を持って、この計画を立てていくということで、理解させていただきます。それでは、
イ、本市のマニフェストについて、ということでお尋ねします。
　私は、総合計画というのは、マニフェストじゃないのかなということで、質問させていただくのですが、蒲郡東港活用検討委員会での結論というのが、蒲郡東港は暫定利用の活用ということになりそうだというふうに伺ったのですが、ここは蒲郡だけでなく、もっと広い範囲でのひとつの重要なポイントとして捉え、具体的にどのように活用するか第 4 次総合計画に載せるべく、しっかり議論していただきたいと思っています。それがために協議すべき対象機関、組織も多岐にわたり、十分な計画立案時間が必要だと思います。言わば、第 4 次総合計画は本市のマニフェストだと思います。ですから、市民の皆さまとともに市長以下当局、そして市議会が一丸となって進めていかなければならないと思うのですが、その点については、いかがでしょうか。

●企画部長
　総合計画は、市のマニフェストだとは思っておりません。総合計画はあくまで、総合計画であるというふうに思っております。東港活用検討委員会は、今まで９回にわたって議論をしていただき、本年度末を目処に答申をいただけるのではないかと期待しているところであります。現在議論中でありまして、お答

えしにくいところもありますが、概ね答申の内容については、まとまってきたのではないかなというふうに思っております。答申の内容次第によりましては、総合計画に反映すべき点がありましたら、総合計画審議会にてご議論いただくこともあるかなというふうに考えております。いずれにしても、東港地区は、本市の「海のまちづくり」の戦略拠点だというふうに思っております。検討委員会からの答申を踏まえた中で、総合計画への位置付けを考えていきたいと考えております。いずれにしましても、総合計画は、実現することを前提に作ってまいりたいと、当然ながら、その実現に向けてオール蒲郡で取り組んでいく、そんなふうになっていくということを期待しております。

〇新実祥悟

最後になりますが、ぜひとも、この期間中にすばらしい計画を、皆さんと一緒に私たちもやらせていただきたいなぁというふうに思っております。

以上をもちまして、質問を終わります。どうもありがとうございました。